

ふくいわじびいんこうかりにつく

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック

http://www.fukujiwa-clinic.com



問診票の記入も医療コンシェルジュがお手伝い

お答えいただいたDr.



福岩 達哉 院長
Tatsuya Fukuiwa

Profile

加世田市（現・南さつま市）で出生。県立鶴丸高校卒業、鹿児島大学医学部卒業後、平成7年、鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学教室へ入局
平成12年（財）癌研究会附属病院頭頸科研修
平成16年 米国アラバマ大学バーミングハム校（UAB）免疫ワクチンセンター留学
平成19年 鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
平成20年 ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック開院
平成22年 医療法人エターナル設立
●医学博士
●日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
●日本気管食道科学会認定専門医
●日本がん治療認定医機構がん治療認定医
●日本アレルギー学会認定専門医
●日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
●日本アロマセラピー学会認定医

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック DATA

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	○	○
14:00～18:00	○	○	○	○	○	○	☆	○

☆土曜午後は17:00まで受付

TEL0993-53-3387

■住 所 / 南さつま市加世田本町22-5
■駐 車 場 / あり
■アクセス / 指宿スカイライン谷山ICから車で30分
枕崎市街から車で25分
鹿児島交通線加世田ステーションから徒歩2分



来院から待ち時間までのサポート
をする医療コンシェルジュ

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック

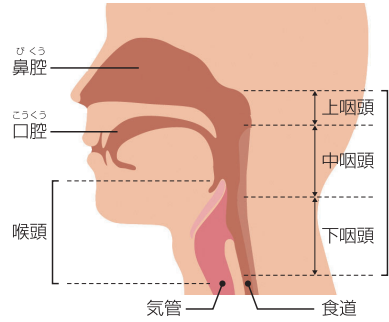
院長の福岩達哉医師は、鹿児島大学病院で頭頸部外科の手術治療（舌がん、咽喉頭がん、甲状腺がん）にあたってきた。腫瘍の切除や再建手術を数多く手がけた経験から、がんの早期発見・早期治療に力を注ぐ。院内には、CTや分光内視鏡(FICE)、エコー等、質の高い検査機器を完備し、がん専門施設と同等の診断水準を目指している。

幅広い世代の患者さんを耳・鼻・のど・めまいなどの疾患を中心に診療する同院。丁寧な説明や検査等により、以前は待ち時間が長くなることもあった。しかし、インターネットや携帯のQRコード、自動音声ガイダンスから予約できるシステムを導入したことで、待ち時間の短縮に成功。さらに現在、受付から待ち時間までをサポートする医療コンシェルジュの育成に力を注ぐ。コンシェルジュは来院時の誘導のほか、問診票を記入する際のサポートもしてくれる。丁寧にヒアリングすることで、症状をより詳細に知ることができる上、赤ちゃん連れやお年寄りなど、問診票の記入が困難な人も安心だ。プライバシーに配慮したホスピタリティー溢れる医療サービスが評判を呼び、地域だけでなく、遠方から訪れる患者さんも多い。



レンガがアクセントになった、モダンでナチュラルな雰囲気の外観

咽頭(いんとう)がんの原因と早期診断の重要性



イラストの通り、咽頭と喉頭は別の臓器である

Q 咽頭がんとはどんな病気ですか？
A 私たちが言う「のど」は、咽頭と喉頭からできています。このうち咽頭は、鼻の奥から食道までの食べ物と空気が通る部分で、上咽頭、中咽頭、下咽頭に分かれます。それぞれにできるがんを上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんと呼び、別々に診断・治療します。これら3つの咽頭がんは喉頭にできる喉頭がんとは異なる病気ですので、診断や治療も違います。上咽頭がんは、若者層にも多く見られ、中・下咽頭がんは、50～60代の男性に多く、喫煙や過度の飲酒を長期間続けることで発症のリスクが高まると考えられています（国際がん研究機関による評価）。中・下咽頭がんは、食道や口の中にもがんが合併することがある（重複がん）、注意が必要です。また、咽頭の周りには多くのリンパ節があるため、咽頭がんでは比較的早い段階で頸部のリンパ節に転移することがあります。さらに、手術でがんを全部切除したように見えても、その時点ですでにがん細胞がリンパ節や他の臓器に移動している可能性もあり、時間が経ってから肺や肝臓、骨などに転移して見つかるケースもあります。

Q 咽頭がんではどんな症状が見られますか？
A 上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんは、それぞれ症状が異なります。まず上咽頭がんの症状は鼻づまりや鼻血、鼻水に血が混ざるなど「鼻の症状」と、耳が詰まった感じがしたり聞こえにくかったりする「耳の症状」、目が見えにくかったり、二重に見えたりする「脳神経の症状」、首のリンパ節の腫れなどが挙げられます。中咽頭がんは、飲み込むときの違和感やのどがしみる感じ、のどの痛みや出血など「のどの症状」が出ます。口を開けにくくなったり、息が鼻に抜けて言葉がわかりにくくなったり、首のリンパ節が腫れることもあります。下咽頭がんは、中咽頭がんでも見られる「のどの症状」に加え、耳の周りの痛みや声がれ、首のリンパ節の腫れやしこり

Q 咽頭がんではどのような検査を行うのですか？
A のどは口を開けただけでは見えない臓器なので、まず間接喉頭鏡という鏡を用いた視診、および触診による頸部の検査を行います。そこで異常が疑われる場合、電子内視鏡、頸部エコー、およびCTスキャン等を用いて詳しく調べます。咽喉頭内視鏡検査では、鼻の中から細い電子内視鏡を挿入し、鼻やのどの奥を観察します。さらに当院の内視鏡にはFICEと呼ばれる分光内視鏡画像処理機能が備わっており、小さながんをより明確に映し出すことでがんの早期発見を可能としています。内視鏡検査で疑わしい組織が見つかったら、その

Q 咽頭がんではどのような治療をするのですか？
A 咽頭がんの治療は、基本的に放射線治療、抗がん剤治療（化学療法、手術外科治療を組み合わせて行いますが、がんができた部位

一部を切り取り、顕微鏡でがんかどうかを調べる「内視鏡下生検」を行います。このような内視鏡を使った検査は局部麻酔をかけることが多く、痛みはほとんどありません。

また、触診等で首のリンパ節に転移の疑いがある場合は超音波（エコー）検査を、そしてがんの広がりを調べるためにCTなどで画像診断を行うこともあります。当院はこれらの検査をすべて院内で行うことで、がんの早期発見を目指しています。



がんの早期発見が期待できる分光内視鏡 (FICE)

最近、ニュースでも取り沙汰されて問題視されている咽頭がん。咽頭がんはがん細胞ができる場所によって症状も治療法も異なることをご存知ですか？今回は、がん治療認定医の資格を持つ福岩達哉医師に、咽頭がんのことをお聞きしました。